

## 建設技術センター情報

## CONTENTS

トピック 「道路構造令の解説と運用」の改訂について

連載2 これからの積算設計書についてみんなで考えよう

今年度実施する新規研修メニューのご紹介

派遣研修を終えて

新任職員～よろしくお祈りします～

編集後記

この情報誌は土木技術に関する様々な情報を、山口県及び市町村の土木技術職員の皆様方に提供するものです。



●小郡萩道路(大田トンネル) 吹付コンクリート

## トピック 「道路構造令の解説と運用」の改訂について

道路に関する一般的技術基準を定めた道路構造令について、解説・補完することを目的とした「道路構造令の解説と運用」が、昭和58年改訂以来、21年ぶりに全面改訂(平成16年2月)となりました。

昭和58年以降の道路構造に関する動きとして、「道路の審議会の答申」や「道路構造令の改正」及び「道路構造に係わる技術基準等の制定、改正」があり、今回の改訂は、それらの内容を盛り込んだものとなっています。

## 1. 道路の審議会の答申

## (1) 道路構造に関する道路審議会答申(平成6年)

「モビリティ重視」から「総合的なユーティリティ重視」の道づくりへ、「画一的な道づくり」から「個性ある道づくり」及び「地域が自由に発想できる道づくり」など、21世紀に向けた道路計画・構造のあり方を提言

## (2) 社会資本整備審議会道路分科会答申(平成14年度)

道路の整備効果の早期発現・整備コストの縮減等を図るため、地域の実状に応じた最適な構造とするなど地域に応じたローカルルールの採用の推進などを提言

- ・高規格幹線道路における追越区間付き2車線構造
- ・地域高規格における現道の活用
- ・1.5車線の道路整備

## 2. 道路構造令の改正

- 平成5年
  - ・歩道などの最小幅員の拡大
  - ・歩行者滞留スペースの確保
  - ・車両の大型化への対応(設計自動車荷重20t→25t)
- 平成13年
  - ・歩行者、自転車の通行空間の確保
  - ・路面電車の通行空間の確保
  - ・「緑」空間の増大
  - ・舗装の構造基準の性能規定化

- 平成15年・高規格幹線道路における追越区間付き2車線構造の導入
  - ・乗用車専用道路(小型道路)の導入
  - ・中央帯幅員の特例値の縮小

## 3. 道路構造に係わる技術基準等の制定、改正

- ①バリアフリーへの対応(交通バリアフリー法 H12)
- ②線形設計の原則と組合せ
- ③平面交差点の幾何構造と交通安全
- ④防護柵(防護柵設置基準 H10)
- ⑤電線共同溝(電線共同溝法 H7)
- ⑥簡易型インターチェンジ
- ⑦分合流部の車線バランス
- ⑧料金所(料金徴収施設設置基準 H11)等

今回の改訂により、道路を計画・設計する場合には、多様な道路の機能のうち、地域の状況から、当該道路において重視すべき機能を明確化し、地域の裁量に基づき、道路構造令の基準を弾力的に運用することが重要となります。

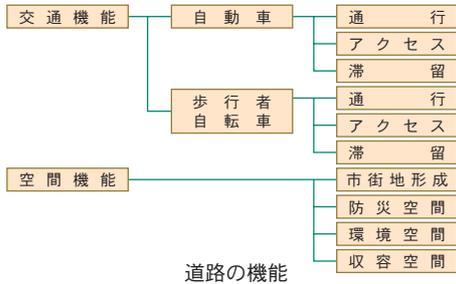
次ページに、主な改訂内容の中から、「道路の計画・設計の考え方」の一部について紹介しますので参考としてください。

# トピック 「道路構造令の解説と運用」の改訂について

## 道路の計画・設計の考え方

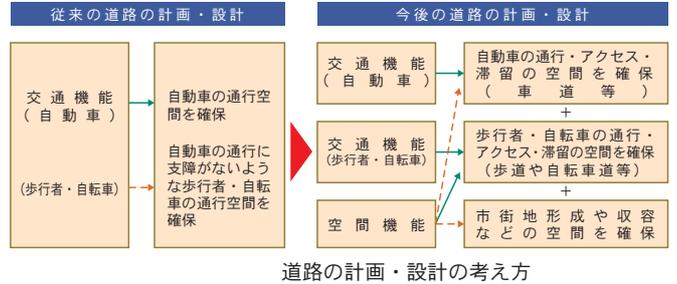
### ●道路の役割と機能

道路は、生活や経済活動に不可欠な基本的な社会資本として大きな役割を果たし、多様な機能を有する



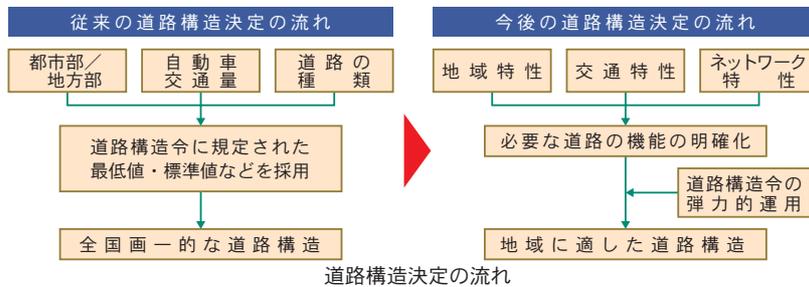
### ●多様な機能の重視

従来は自動車の通行を中心とした考え方、今後は多様な道路の機能を考慮することが必要



## 道路の計画・設計の手順

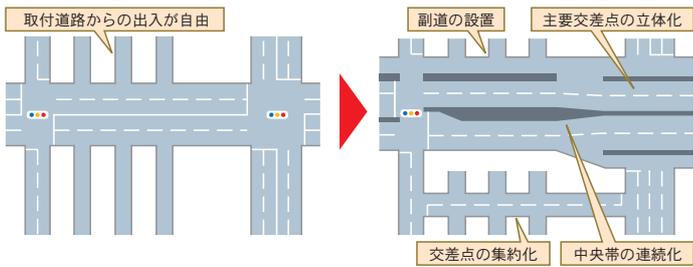
道路の特性から必要となる道路の機能を確保するのに必要な道路構造を総合的に判断



## 道路の機能を確保する道路構造

### ●自動車の通行機能を重視する道路

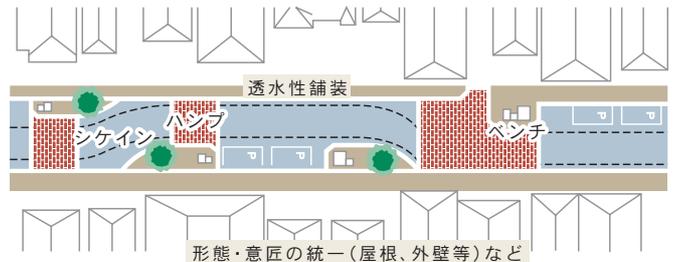
出入制限等の高い規格の構造を採用



一般道路で沿道出入りを制約する道路構造の例

### ●自動車の通行機能を抑制する道路

必要に応じて自動車の速度抑制のための構造を採用

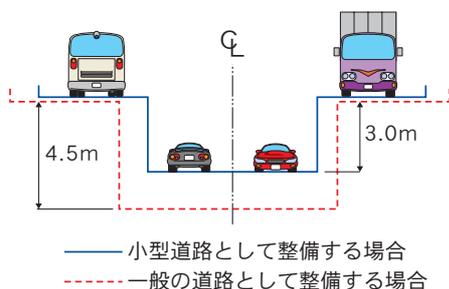


歩車共存道路等の例

## 地域の状況に応じた道路構造

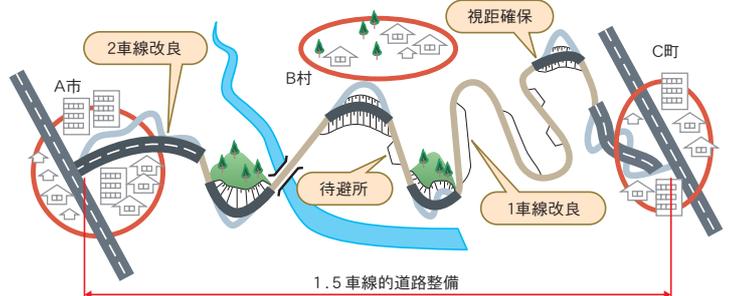
### ●都市の状況に応じた道路構造

早期の道路整備が必要だが用地確保が困難な道路では、道路規格を小さくして早期に容量拡大を図るため、乗用車や小型貨物車のみが通行可能な小型道路(乗用車専用道路)を採用



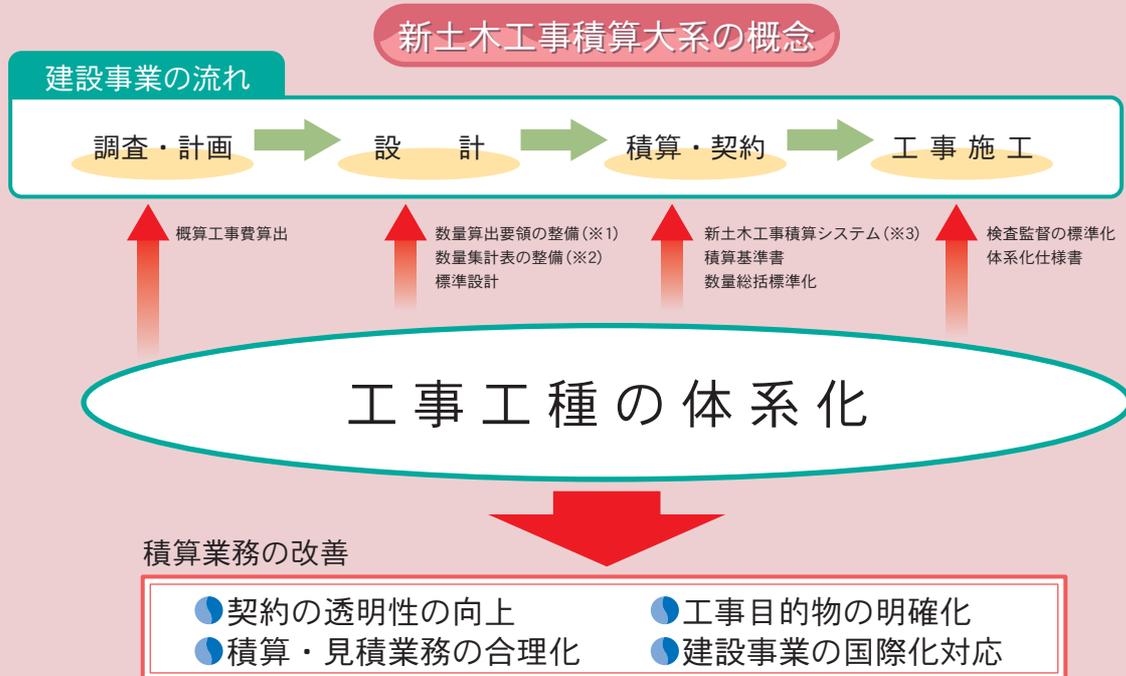
### ●山地部等における道路の構造

交通量は少ないものの日常生活に不可欠で早期に整備が求められる道路では必要最低限の通行機能を確保できる道路構造(1.5車線の道路)を採用



# これからの積算設計書についてみんなで考えよう

近年、公共工事をとりまく環境は大きく変化しており、業務の多様化、複雑化とともに、積算分野においても、その透明性、客観性、妥当性の向上が強く求められています。国土交通省では、平成3年度から公共工事積算の改善に向けた取り組みを行っており、その取り組みが「新土木工事積算体系」の整備であり、概念的には下図のようなものです。



※1「土木工事数量算出要領(案)」国土交通省中国地方整備局監修

※2「土木工事数量集計表」国土交通省国土技術政策総合研究所 (<http://www.nilim.go.jp/>) からダウンロード可能

※3「山口県土木工事設計積算システム」

「新土木工事積算体系」の整備は、工事工種の体系化を行い、これにすべての関連事務を整合させる、まさに「標準化」の作業であり、これらは関連づけながら整備されているものです。よって、一つでも欠けてしまえば、本来の目的が達成されるとは思えません。

みなさんはどのように思われますか。(「新土木工事積算体系」に関する情報：国土交通省国土技術政策総合研究所(<http://www.nilim.go.jp/>))

## 今年度実施する新規研修メニューのご紹介

平成15年度からスタートした6カ年の研修計画で、今年度新規に実施する研修を紹介します。この他の研修についても一層内容を充実させていきますので、奮って参加してください。

実務能力研修—経験が概ね5年程度

### 下水道実務課程(11/17~18)

下水道の計画・設計・施工から維持管理までの幅広い知識を身に付けます。



今年度の研修の詳細は、センターホームページ(県及び市町村職員限定ページ)に掲載しています。

専門能力研修—経験が概ね10年程度

### 建設環境課程(6/29~30)

建設事業を推進するうえで必要な自然環境に対する知識及び環境対策に関する技術を学びます。

### コンクリート維持補修課程(10/13~14)

コンクリート構造物の維持管理及び補修に関する知識を修得します。

## 派遣研修を終えて

2年間を振り返って

野村 正純

萩市の松谷晃知さんと私が、(財)山口県建設技術センターへ派遣され2年が経過しました。2年前センターへの派遣が決まり、毎日不安な気持ちで過ごしていたのを思い出します。県職員の職場、ハイレベルな技術内容などを考えれば不安が募るばかりでした。しかし、センターは私らを「県と市」ではなく仲間として迎え、仲間として接していただいたので、変に隔たりを感じることなく2年間楽しく過ごせました。

私が勉強となったと思うことは、技術的なことはさておき「今後の行政の役割と技術者のあり方」について各々意識を持ち、必要な知識を習得しようとする姿勢、日常会話での意見交換がされていることに感銘を受けました。今まではこのようなことは考えたこともなく、考える必要もないと思っていました。でもこれからは、建設生産システムの改革の必要性や改革への流れについて、行政マンとして新たな展開を模索し続けなければならないと思いました。

センターでの仕事をするうえで多くの人と知り合うことができました。この場をお借りして、私の未熟さでご迷惑をかけた皆様にお詫び申し上げ、ご指導いただいた皆様にお礼もうしあげます。今後もよろしく願い致します。



派遣研修を終えて

松谷 晃知

萩市役所に入所して10年目の年に、(財)建設技術センターへの研修派遣が決まり、「マンネリ打破」を目標にした、2年間の研修が終わりました。(財)建設技術センターでの業務は、橋梁・トンネル等、自分には、全く経験のない業務が多く、まさしくゼロからの研修となりました。

県事業において、高度な技術を要する事業に携わり、技術的知識を高めたことは、もちろんでしたが、山口県下で行われている土木事業の実状を知ると共に、それに携わる多くの人達の考えや思いを聞いたことは、大きな経験となりました。

この派遣研修で得たものは、これからの道路行政が、今まで以上に「必要であるものは必要、不用のものは不用」と住民に説明し、どれだけ理解を得られるかが最大の課題となり、行政だけでそれを行うには限界であり、住民、民間と一体となった取り組みが必要であると実感出来たことでした。そして市町村合併・地方分権が進む中、地方が自らの考え、自らの行動で地域を良くしていく事が切実な問題であることを改めて感じさせられた2年間でした。

最後になりましたが、何も解らない私が2年間頑張って来られたのは、皆様方の暖かいご協力があったおかげであると感謝申し上げますと共に、これからもご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。



## 新任職員 ~よろしくお願ひします~



総務課主事  
畑谷 友幸

みなさんのお力に少しでも添えるよう陰ながら努力します。



研修課長  
楢山 英樹

職場のニーズと「ものづくり」の夢を叶える研修を目指したいと思います。



技術課主任  
佐々井 浩之

みなさんの疑問に何でもお答えできるセンターを目指します。



技術課主任  
村上 満典

(小野田市から派遣)

皆様の信頼を得られるよう全力で頑張っております。



技術課主任技師  
松並 宏昌

(光市から派遣)

多くのことを吸収できるよう、一生懸命勉強させていただきます。

### 編集後記

平成16年度の新編集スタッフによるセンター情報誌 Vol17を発売しましたのでお届けします。

私達建設センター職員は、常に皆さんのより良きサポートを目指し、お役に立つ技術支援に心掛けていますので、お気軽にご相談下さい。

また、長期研修計画の2年次目として下水道、維持管理、建設環境の新しい研修もはじめます。奮ってご参加されるようお待ちしております。

なお、皆さんの貴重な技術体験、技術情報、ご意見等、何でも結構です。ご寄稿を編集委員一同お待ちしております。連絡先は右記の通りです。

【Eメールアドレス】 info@yama-ctc.or.jp

【ホームページアドレス】 http://www.yama-ctc.or.jp

〒753-0073 山口市春日町8-3 春日山庁舎

(財)山口県建設技術センター 情報誌編集委員会 宛

【TEL】 083-920-1233 【FAX】 083-920-1288